

室蘭グリーンエネルギータウン構想

■取組主体

室蘭市

■活動場所

北海道室蘭市

■概要

室蘭市は、鉄鋼業を中心に蓄積された高度な技術や人材、物流基盤、研究開発機関を持つ「ものづくりのマチ」として発展し、これら産業基盤を活かした環境産業を振興してきたが、世界的な地球温暖化対策の必要性や東日本大震災以降のエネルギー問題への対応が求められる中、平成27年2月に「環境産業都市としての地域経済活性化」、「北海道の次代エネルギー社会構築に向けた先導」、「環境と市民にやさしい低炭素都市の創造」を目的とした「室蘭グリーンエネルギータウン構想」を策定し、グリーンエネルギー（水素エネルギー、再生可能・未利用エネルギー）導入量を現状から倍増させることを当面の目標として、産学官・市民連携による総合的な施策が現在実施されている。

これまで、風力や太陽光、バイオマスによる発電事業の促進、LED照明の導入による省エネルギー化などに取り組むほか、水素エネルギーについて早期に着目し、道内初となる水素ステーションと燃料電池自動車の一体的導入、公共施設へのエネファームの導入、水素関連産業への参入促進など寒冷地における環境・エネルギー対策を先導的に進めている点や、市民、大学、企業、行政が連携して取組を進めている点が高く評価できる。構想実現の途中段階ではあるものの、今後は再生可能エネルギー等を活用した水素サプライチェーンの構築や(仮称)環境科学館の整備による普及啓発活動などによる取組みの進展が見込まれ、更なる省エネルギーの促進、グリーンエネルギー転換の進展や地域経済の活性化への寄与が期待される取組である。



室蘭市が導入した水素ステーションと燃料電池自動車



室蘭夜景観光として親しまれている白鳥大橋のイルミネーションライトアップ LED化(H29年度完了予定)